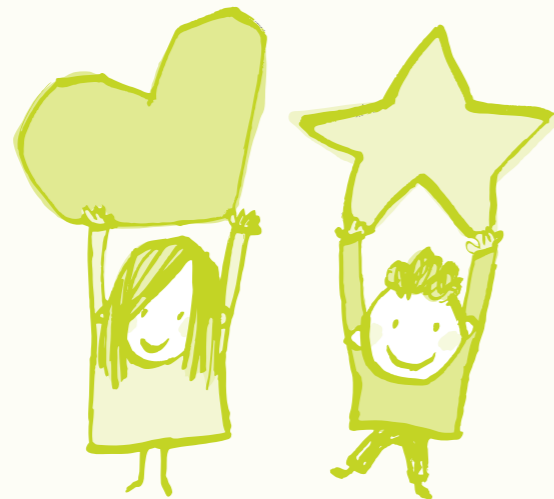


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2025年度事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2025～ Mar.31,2026



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<https://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索









CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2025年度収支報告	6
 2025年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③研究助成事業	17
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	21
⑧国際活動	27
⑨奨学金事業	27
⑩ボランティアコーディネート	28
⑪調査研究協力	28
⑫年次大会	28
⑬クリスマスプレゼント	29
⑭物品・ボランティアのご協力	29
 寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ



公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長 山下 公輔

2025年度事業報告書の発行に当たり、ご挨拶申し上げます。

年度末近くになり、米国によるイラン攻撃というただでさえ不安定な国際情勢を更に震撼させるような事態が起こり、国際活動を通じて交流のあるイランを始め中東地域の親や経験者の方々の動向に心が痛む中で終わった2025年度でしたが、お陰様で当会としては無事に事業全般に亘って計画通りの事業成果をご報告できることに心から感謝しております。

年度を通じた事業活動実績の詳細は、報告書本文をお読みいただきたいと思います。前年度同様に今年度も多くの企業・団体・個人の皆様からのご寄付のほかに、篤志の方から大きな特別寄付・遺贈を頂戴することができ、健全な決算となりました。更に、当会設立時からの大切な事業であり長期に亘って財政的裏付けが必須な、療養助成事業や研究助成事業などの将来のための資金を積み立てることが出来ております。

まずは、ご支援を頂いた企業・団体・個人の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、近年続く人員不足を乗り越えて業務を積極的に推進して頂いた事務局の皆さん、支部活動や様々なイベントをボランティアとして支えて頂いていた全国の会員の方々に、心から感謝の意を表させていただきます。

公益財団法人 がんの子どもを守る会は、

1960年代初めに小児がんで子を亡くした親たちが共有した「小児がんを治る病気にしたい」、「小児がんの子どもを持つ家族が、自分達と同じような苦しみを味わうことのない世の中をつくりたい」という二つの願いの実現をミッションとし、半世紀を越えて事業展開をして参りました。

近年の医学の進歩により、創立当時には夢でしかなかった「小児がんを治る病気にしたい」という願いは、夢では無く徐々に現実のものに近づきつつあります。一方、「小児がんの子どもを持つ家族が、自分達と同じような苦しみを味わうことのない世の中をつくりたい」という願いは、様々な面で大きく改善されてきたとはいえ、未だ解決の必要な課題を多く残しており、小児がんの患児・家族・経験者に寄り添った支援と小児がんに関わる諸課題の解決に向けた活動の持続的推進が、私たちの使命であることを改めて痛感しております。

不肖私を含めた理事並びに事務局職員一同、そのための努力を続ける所存であり、当会の活動をご理解いただきご支援を頂いている皆様、またボランティアの方々におかれましても、当会の活動への一層のご理解と継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年4月吉日



組織概要

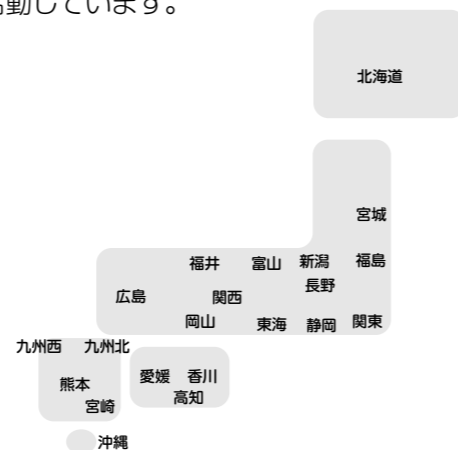
※2026年3月31日現在

名称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設立	1968年10月31日
設立趣旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主務官庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組織	理事 13名（理事長1名、副理事長3名） 監事 1名 評議員 10名 職員 26名 普通会员 1,471名 賛助会員 233名（法人15社、個人218名）

支部 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿

 (肩書は2026年3月31日現在のものです)

理事長	山下 公輔 親/元PwCアドバイザー/シニアアドバイザー
副理事長	細谷 亮太 元聖路加国際病院小児医療センター長 近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー 増子 孝徳 親/弁護士
理事	張 光陽 親/当会九州北支部 幹事 坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事 森下 さふみ 親/当会関西支部 代表幹事/ NPO法人日本クリニックラウン協会 相談役 田中 徹 親/当会会員 舛本 大輔 小児がん経験者ネットワーク シェイクハンス! 副代表 酒井 信夫 親/当会会員 米田 光宏 国立成育医療研究センター 外科・腫瘍外科診療部長/ 国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍外科長 常務理事/当会事務局長
監事	丹野 泰 親/三川会計事務所 代表
評議員	河 敬世 大阪母子医療センター血液腫瘍科 顧問/ 近畿ブロック血液センター医学セミナー 顧問 西田 知佳子 NPO法人ハビネスト 代表/ソーシャルワーカー 平野 朋美 公益社団法人埼玉県医療社会事業協会 理事 幸島 静枝 親/当会会員 鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事 隈部 俊宏 北里大学医学部 脳神経外科 主任教授 本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 小田原通信部 記者 丸山 謙一郎 小児がん経験者 園部 かおる 親/当会会員/ 聖路加国際病院小児病棟親の会リンクス共同代表
療養援助委員会	前田 美穂 日本医科大学 名誉教授 柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座前教授/ 東京慈恵会医科大学 小児科学講座 客員診療医長 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科部長兼NICU室長 松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 川井 章 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長 康 勝好 埼玉県立小児医療センター 副院長兼 小児がんセンター長 木下 義晶 新潟大学大学院 歯医学総合研究科小児外科学分野 教授

調査研究委員会

細谷 亮太	当会副理事長/当会嘱託医
上別府 圭子	国際医療福祉大学大学院 看護学分野 教授
米田 光宏	当会理事
山下 公輔	当会理事長
増子 孝徳	当会副理事長
田中 徹	当会理事

研究助成委員会

菱木 知郎	国立大学法人千葉大学大学院 医学研究院小児外科学 教授
小原 明	東邦大学 名誉教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科部長兼NICU室長
陳 基明	さくら耳鼻科小児科医院 副院長
丸 光恵	淀川キリスト教病院 副院長兼看護部長
山下 公輔	当会理事長
野寄 美和子	獨協医科大学 特任教授/獨協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長
逸見 仁道	アズサイエンス株式会社 小田原営業所
義岡 孝子	国立成育医療研究センター 病理診断部統括部長/ 中央病理診断部統括部長/臨床検査部統括部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

関谷 亜矢子	フリーアナウンサー
米田 光宏	当会理事
松井 秀文	公益財団法人ゴールドリボン・ネットワーク 名誉会長/ファウンダー
沢辺 隆雄	産経新聞 論説委員
田中 徹	当会理事

SMSキャンプ委員会

稲田 浩子	社会福祉法人ゆうかり学園ゆうかり医療療育センター小児科 部長
高木 正稔	東京科学大学 発生発達病態学分野教授
渡邊 輝子	済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀	当会評議員
大植 孝治	兵庫医科大学小児外科 教授

富士山キャンプ委員会

別所 文雄	杏林大学医学部附属病院 小児科
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科部長兼NICU室長
安野 啓一郎	児童自立支援施設 長崎県立開成学園
高土 陽一郎	川崎市立山田学童保育室

名誉顧問

柳田 邦男	作家
-------	----



会の歴史

(年度)	
1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	当会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会

(年度)	
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんと子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成/大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いまそしてこれから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）/第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催/テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出
2021	アフラックペアレンツハウス亀戸開設20周年（2021年2月） 「小児がん経験者の健康管理サイト」開設
2022	小児・AYA世代がん対策政策提出のためのワーキンググループの意見を取り纏めて、 「小児がん患者・家族からの要望書」として厚生労働大臣および文部科学大臣へ提出 「小児がん経験者のための健康管理応援ガイド」刊行
2023	国の第四期がん対策推進基本計画を受けて各都道府県に対する小児がん患者・家族からの要望書提出
2024	国際小児がんの会（CCI）アジア/国際小児がん学会（SIOP）アジア横浜開催（運営参画） ペアレンツハウス浅草橋の開業20周年の式典及びオープンハウス実施
2025	年次大会において「総合対策センターとしてペアレンツハウスのこれまでとこれから」 ～こどもと家族のために何ができるか～ というテーマで実施



2025年度収支報告 (2025年4月1日～2026年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	1,780,426			1,780,426
信託預金利息	107,297			107,297
普通預金利息	1,360,629			1,360,629
定期預金利息	312,500			312,500
投資有価証券利息	0			0
受取寄付金	334,950,361		107,579,275	442,529,636
特定寄付金	3,658,400			3,658,400
一般寄付金	107,579,274		107,579,275	215,158,549
会費	3,009,500		3,009,500	6,019,000
寄付	104,569,774		104,569,775	209,139,549
受取寄付金振替額	223,712,687			223,712,687
受取協賛金	0			0
受取補助金等	1,545,183			1,545,183
受取補助金等振替額	1,545,183			1,545,183
受託料	717,921			717,921
調査研究受託料	0			0
相談支援受託料	717,921			717,921
受取利用料	4,631,450			4,631,450
施設利用料	4,050,500			4,050,500
リネン利用料	580,950			580,950
雑収益	617,534	1,875,000		2,492,534
雑収益	617,534	0		617,534
資産受取買借料	0	1,875,000		1,875,000
指定正味財産からの振替額	0			0
指定寄付金	0			0
経常収益計	344,242,875	1,875,000	107,579,275	453,697,150
(2) 経常費用				
事業費	325,952,915	589,598		326,542,513
人件費	89,727,482			89,727,482
法定福利費	9,227,316			9,227,316
給与	77,213,306			77,213,306
福利厚生費	0			0
退職給付費用	3,286,860			3,286,860
助成費	33,563,361			33,563,361
療養助成費	15,780,988			15,780,988
研究助成費	9,200,000			9,200,000
調査研究助成費	2,250,000			2,250,000
三重ファミリールームほか助成費	6,332,373			6,332,373
活動費	77,412,452	323,646		77,736,098
会議費	895,046			895,046
旅費交通費	7,072,825			7,072,825
通信運搬費	8,886,136			8,886,136
消耗品費	9,162,526			9,162,526
修繕費	1,693,718			1,693,718
印刷製本費	1,908,048			1,908,048
光熱水料費	12,230,857			12,230,857
保険料	1,426,603	16,816		1,443,419
諸謝金	716,545			716,545
業務委託費	1,809,910			1,809,910
広報費	2,258,099			2,258,099
支援費	1,015,081			1,015,081
図書資料費	112,800			112,800
保健衛生費	540,692			540,692
ゴールドリボン制作費	0			0
宿泊施設運営費	588,017			588,017
租税公課	4,105,200	76,400		4,181,600
支部活動費	19,800			19,800
リネン賃借料	776,252			776,252
事業協力費	672,714			672,714
会場費	2,280,896			2,280,896
雑費	3,181,185	13,470		3,194,655
保守料	9,048,774	216,960		9,265,734
リース料	1,708,843			1,708,843
植栽管理費	200,000			200,000
借地料	0			0
支払報酬	198,000			198,000
衛生管理費	4,903,885			4,903,885

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
消耗什器備品費	0			0
減価償却費	31,669,620	265,952		31,935,572
建物減価償却額	24,559,856	100,247		24,660,103
建物附属設備減価償却額	6,066,857	105,820		6,172,677
ソフトウェア減価償却額	535,606			535,606
什器備品減価償却額	366,635	59,885		426,520
一括償却資産減価償却額	140,666			140,666
奨学金給付費	93,580,000			93,580,000
奨学金給付費	93,580,000			93,580,000
管理費			37,987,083	37,987,083
人件費			20,742,144	20,742,144
給与			15,991,969	15,991,969
法定福利費			2,494,571	2,494,571
福利厚生費			64,364	64,364
退職給付費用			2,191,240	2,191,240
活動費			15,657,802	15,657,802
旅費交通費			213,136	213,136
通信運搬費			723,364	723,364
消耗品費			25,641	25,641
印刷製本費			593,560	593,560
保険料			113,860	113,860
業務委託料			3,711,400	3,711,400
図書資料費			58,800	58,800
保守料			3,090,714	3,090,714
リース料			3,695,522	3,695,522
支払報酬			2,431,900	2,431,900
租税公課			17,200	17,200
消耗什器備品費			0	0
雑費			982,705	982,705
減価償却費			1,587,137	1,587,137
ソフトウェア減価償却額			936,980	936,980
什器備品減価償却額			225,452	225,452
一括償却資産減価償却額			424,705	424,705
経常費用計	325,952,915	589,598	37,987,083	364,529,596
評価損益等調整前当期経常増減額	18,289,960	1,285,402	69,592,192	89,167,554
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	18,289,960	1,285,402	69,592,192	89,167,554
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	3,999,792	0	0	3,999,792
経常外費用計	3,999,792	0	0	3,999,792
当期経常外増減額	△3,999,792	0	0	△3,999,792
他会計振替前当期一般正味財産増減額	14,290,168	1,285,402	69,592,192	85,167,762
他会計振替額	608,407	△608,407		0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△319,500		△319,500
当期一般正味財産増減額	14,898,575	357,495	69,592,192	84,848,262
一般正味財産期首残高	434,586,473	672,126	322,714,808	757,973,407
一般正味財産期末残高	449,485,048	1,029,621	392,307,000	842,821,669
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	1,545,183			1,545,183
受取助成金	1,545,183			1,545,183
助成金	1,545,183			1,545,183
受取寄付金	197,915,668			197,915,668
指定寄付金	197,915,668			197,915,668
三重ファミリールーム指定寄付金	0			0
施設運営指定寄付金	97,544,737			97,544,737
奨学金指定寄付金	100,279,839			100,279,839
療養助成	91,092			91,092
特定資産評価損益	0			0
一般正味財産への振替額	△225,257,870			△225,257,870
指定寄付金	△223,712,687			△223,712,687
受取敷金	0			0
受取助成金等	△1,545,183			△1,545,183
受取補助金	0			0
当期指定正味財産増減額	△25,797,019			△25,797,019
指定正味財産期首残高	2,037,798,236			2,037,798,236
指定正味財産期末残高	2,012,001,217			2,012,001,217
III 正味財産期末残高	2,461,486,265	1,029,621	392,307,000	2,854,822,886



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	合計	一般会計	AFLACベアレンツハウス 特別会計	小児がん経験者・がん遺児 奨学金特別会計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	1,780,426	1,526,167	239,829	14,430
信託預金利息	107,297	107,297	0	0
普通預金利息	1,360,629	1,106,370	239,829	14,430
定期預金利息	312,500	312,500	0	0
受取寄付金	442,529,636	218,816,949	123,432,848	100,279,839
特定寄付金	3,658,400	3,658,400	0	0
一般寄付金	215,158,549	215,158,549	0	0
会費	6,019,000	6,019,000	0	0
寄付	209,139,549	209,139,549	0	0
受取寄付金振替額	223,712,687	0	123,432,848	100,279,839
受取補助金等	1,545,183	1,545,183	0	0
受取補助金等振替額	1,545,183	1,545,183	0	0
受託料	717,921	717,921	0	0
相談支援受託料	717,921	717,921	0	0
受取利用料	4,631,450	342,000	4,289,450	0
施設利用料	4,050,500	342,000	3,708,500	0
リネン利用料	580,950	0	580,950	0
雑収益	2,492,534	2,491,368	30	1,136
雑収益	617,534	616,368	30	1,136
資産受取賃借料収入	1,875,000	1,875,000	0	0
経常収益計	453,697,150	225,439,588	127,962,157	100,295,405
(2) 経常費用				
事業費	326,542,513	98,085,968	128,012,157	100,444,388
人件費	89,727,482	30,821,516	54,905,966	4,000,000
法定福利費	9,227,316	2,677,080	6,050,236	500,000
給与	77,213,306	24,857,576	48,855,730	3,500,000
退職給付費用	3,286,860	3,286,860	0	0
助成費	33,563,361	33,563,361	0	0
療養助成費	15,780,988	15,780,988	0	0
研究助成費	9,200,000	9,200,000	0	0
調査研究助成費	2,250,000	2,250,000	0	0
三重ファミリールームほか助成費	6,332,373	6,332,373	0	0
活動費	77,736,098	33,435,139	41,436,571	2,864,388
会議費	895,046	814,636	53,020	27,390
旅費交通費	7,072,825	7,068,165	4,660	0
通信運搬費	8,886,136	4,600,756	3,039,707	1,245,673
消耗品費	9,162,526	7,417,655	1,739,245	5,626
修繕費	1,693,718	110,050	1,583,668	0
印刷製本費	1,908,048	1,045,924	144,374	717,750
光熱水料費	12,230,857	0	12,230,857	0
保険料	1,443,419	399,314	1,044,105	0
諸謝金	716,545	677,568	11,137	27,840
業務委託費	1,809,910	813,310	996,600	0
広報費	2,258,099	2,258,099	0	0
支援費	1,015,081	1,015,081	0	0
図書資料費	112,800	0	112,800	0
保健衛生費	540,692	7,770	532,922	0
宿泊施設運営費	588,017	588,017	0	0
租税公課	4,181,600	143,100	4,038,500	0
支部活動費	19,800	19,800	0	0
リネン賃借料	776,252	0	776,252	0
事業協力費	672,714	672,714	0	0
会場費	2,280,896	2,280,896	0	0
雑費	3,194,655	1,737,736	616,810	840,109
保守料	9,265,734	1,563,160	7,702,574	0
リース料	1,708,843	0	1,708,843	0
植栽管理費	200,000	0	200,000	0
支払報酬	198,000	198,000	0	0
衛生管理費	4,903,885	3,388	4,900,497	0
減価償却費	31,935,572	265,952	31,669,620	0
建物減価償却額	24,660,103	100,247	24,559,856	0
建物附属設備減価償却額	6,172,677	105,820	6,066,857	0

科目	合計	一般会計	AFLACベアレンツハウス 特別会計	小児がん経験者・がん遺児 奨学金特別会計
ソフトウェア減価償却額	535,606	0	535,606	0
什器備品減価償却額	426,520	59,885	366,635	0
一括償却資産減価償却費	140,666	0	140,666	0
奨学金給付費	93,580,000	0	0	93,580,000
奨学金給付費	93,580,000	0	0	93,580,000
管理費	37,987,083	37,987,083	0	0
人件費	20,742,144	20,742,144	0	0
給与	15,991,969	15,991,969	0	0
法定福利費	2,494,571	2,494,571	0	0
福利厚生費	64,364	64,364	0	0
退職給付費用	2,191,240	2,191,240	0	0
活動費	15,657,802	15,657,802	0	0
旅費交通費	213,136	213,136	0	0
通信運搬費	723,364	723,364	0	0
消耗品費	25,641	25,641	0	0
印刷製本費	593,560	593,560	0	0
保険料	113,860	113,860	0	0
業務委託費	3,711,400	3,711,400	0	0
図書資料費	58,800	58,800	0	0
保守料	3,090,714	3,090,714	0	0
リース料	3,695,522	3,695,522	0	0
支払報酬	2,431,900	2,431,900	0	0
租税公課	17,200	17,200	0	0
雑費	982,705	982,705	0	0
減価償却費	1,587,137	1,587,137	0	0
ソフトウェア減価償却額	936,980	936,980	0	0
什器備品減価償却額	225,452	225,452	0	0
一括償却資産減価償却費	424,705	424,705	0	0
経常費用計	364,529,596	136,073,051	128,012,157	100,444,388
評価損益等調整前当期経常増減額	89,167,554	89,366,537	△ 50,000	△ 148,983
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	89,167,554	89,366,537	△ 50,000	△ 148,983
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	3,999,792	3,999,792	0	0
経常外費用計	3,999,792	3,999,792	0	0
当期経常外増減額	△ 3,999,792	△ 3,999,792	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	85,167,762	85,366,745	△ 50,000	△ 148,983
他会計振替額	0	0	50,000	△ 50,000
税引前当期一般正味財産増減額	85,167,762	85,366,745	0	△ 198,983
法人税・住民税及び事業税	319,500	319,500	0	0
当期一般正味財産増減額	84,848,262	85,047,245	0	△ 198,983
一般正味財産期首残高	757,973,407	796,633,314	77,156,262	△ 115,816,169
一般正味財産期末残高	842,821,669	881,680,559	77,156,262	△ 116,015,152
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	1,545,183	1,545,183	0	0
受取助成金	1,545,183	1,545,183	0	0
助成金	1,545,183	1,545,183	0	0
受取寄付金	197,915,668	91,092	97,544,737	100,279,839
指定寄付金	197,915,668	91,092	97,544,737	100,279,839
施設運営指定寄付金	97,544,737	0	97,544,737	0
奨学金指定寄付金	100,279,839	0	0	100,279,839
療養助成	91,092	91,092	0	0
一般正味財産への振替額	△ 225,257,870	△ 1,545,183	△ 123,432,848	△ 100,279,839
指定寄付金	△ 223,712,687	0	△ 123,432,848	△ 100,279,839
受取助成金等	△ 1,545,183	△ 1,545,183	0	0
当期指定正味財産増減額	△ 25,797,019	91,092	△ 25,888,111	0
指定正味財産期首残高	2,037,798,236	134,250,000	1,691,458,981	212,089,255
指定正味財産期末残高	2,012,001,217	134,341,092	1,665,570,870	212,089,255
III 正味財産期末残高	2,854,822,886	1,016,021,651	1,742,727,132	96,074,103



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族かつ、以下のいずれかの条件に該当する場合（一疾病で一回限りの援助）

- 1) 源泉徴収票において前年の課税所得金額（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から「所得控除の額の合計額」を引いた額）が400万円以下の場合
- 2) 確定申告書において前年の「課税される所得金額（30）」に「専従者給与（控除）額の合計額（59）」及び「青色申告特別控除（60）」を加算した金額が400万円以下の場合
- 3) 市区町村が発行する課税（非課税）証明書の「所得の内訳」から「所得控除の内訳」を引いた額、若しくは課税標準額が400万円以下の場合
- 4) 生活保護受給世帯の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間以内の状況で審査

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2025年度	
決定実績	170件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥15,780,988円 (92,829円/件)

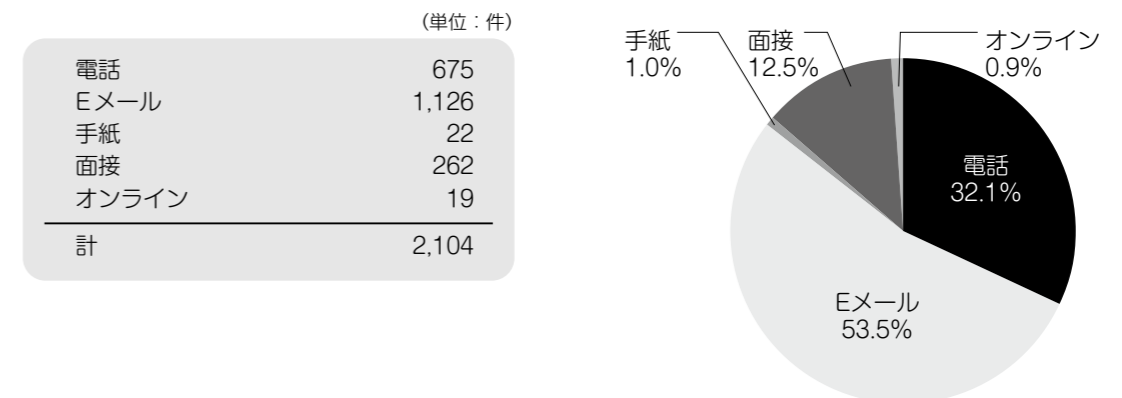
本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」、株式会社ベルライフ、東京マラソン2026および東京レガシーハーフマラソン2025に参加されたがんの子どもを守る会チャリティランナーの皆様から寄付をいただきました。

2 相談事業及び関連事業

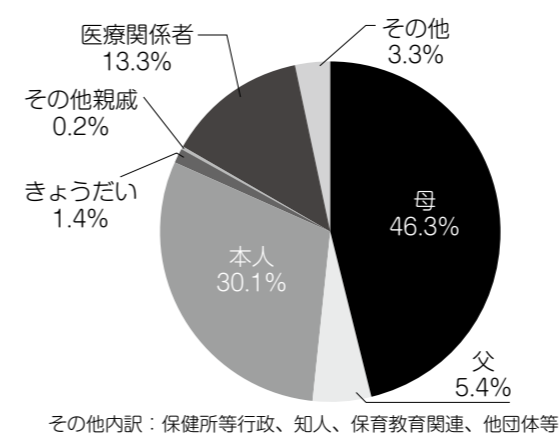
(1) 小児がん相談事業

小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる闘病生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの治療はこどもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族、また取り巻くすべての人に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また亡くされたご家族も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年以上にわたり相談支援を行っています。2025年度は、東京・大阪両事務所に所属する5名のソーシャルワーカーが相談に応じました。近年、当会で取り組んでいる小児がん経験者を対象としたイベントを通じて、ピア同士が出会い、仲間作りの場となったとともに当会と小児がん経験者がつながり、新たな小児がん経験者からの相談も増えました。特に晩期合併症や長期フォローアップ、自立に関する相談が多く寄せられました。

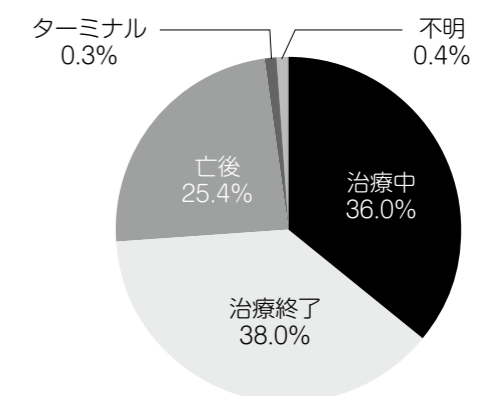
1. 相談方法



2. 相談者属性

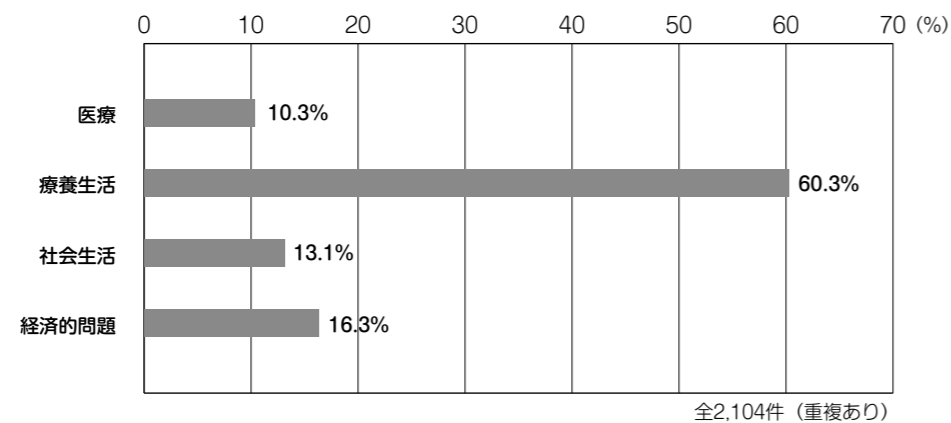


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晚期合併症、長期フォローアップ、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 公式LINE 小児がん子ども相談室With me

2015年8月「小児がん どもでんわ相談室」を開設しましたが、より子どもたちが気軽に相談できるよう2023年度から本事業推進のため株式会社星企画様からのご寄付を資金として、2025年6月に公式LINEを立ち上げました。1年で50人ほどの方が友だち追加してくださり、イベントや交流会のお知らせ配信や個別チャットでのご相談など、10代までの子どもたちとの関わりが始まっています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2025年9月25日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太先生 (元聖路加国際病院 小児医療センター長)	東京（本部）
2025年10月1日	小児科	澤田 明久先生 (大阪母子医療センター 小児科)	大阪
2025年12月16日	患児・きょうだいの心の悩みなど	小澤 美和先生 (聖路加国際病院 小児科)	東京（本部）
2026年2月13日	脳腫瘍	柳澤 隆昭先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座 前教授)	東京（本部）

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

小児がんでお子さんを亡くされた家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年9回開催しました。

ひとりっ子を亡くされた親の会、15歳～19歳のお子さんを亡くされたご家族などテーマを設けた会や、花の一筆画を描く絵手紙づくり、お味噌づくり、和菓子とお抹茶をいただく会などが開催され、穏やかな時間をともにしながら、当会ソーシャルワーカー司会のもと、体験や近況などを話しあい交流を深めました。



子どもを亡くした家族の交流会

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、小児がんでお子さんを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。サポートグループが終了した後も、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後頃に同窓会と称した集まりなど開催し継続的な交流を行っています。

2025年度は希望者がグループ定数に満たなかったため、開催を見送りました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。2025年度は2025年9月15日（日）に現地とオンラインのハイブリッドで開催し、現地7名、オンライン3名の計10名が参加しました。今年はがんノートの岸田徹さんをゲストにお招きし、がんノートの立ち上げの経過や運営していく上での難しさ、大切にしていることなどお話しいただきました。参加者とも活発に意見交換を行いピア活動の意義を共有する時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2025年度は3団体に計90,000円の活動費の支援を行いました。また小児がん経験者の企画（プロジェクト）に対する助成金制度として、2団体に112,000円の支援を行いました。

③小児がん経験者のオンライン交流会 Surv un café～さばかふえ～

2003年より開催している小児がん経験者の会リーダーの集いの中で「それぞれの会の枠を超え、多くの小児がん経験者同士が集える場があるといいな」という声上がり、小児がん経験者の会に所属している・していないに関わらず、広く小児がん経験者の方であればどなたでもご参加いただける交流会を企画し、3年目を迎えました。2025年度は会場とオンラインのハイブリッドで、6月22日「晚期合併症や長期フォローアップ・健康管理」、9月15日「周りとの付き合い方のコツ」、2026年2月1日には1級ファイナンシャルプランニング技能士で小児がん経験者の方を講師としてお招きし「お金と暮らし」をテーマに開催いたしました。

各回初参加の方を含む15名ほどの参加者が集まり、現在の悩みだけではなく、少し先の生活についても話題に上り、ピア同士ならではの交流の時間となりました。



④さばかふえアピランス部パジャマナイト

Surv un café から“よりテーマを絞った集まり”として「さばかふえアピランス部」の部活動合宿パジャマナイトを2025年10月12日～13日、5名の参加者とともペアレンツハウス大阪にて開催いたしました。公共交通機関を使いながら大阪の観光名所をみんなで巡り、日々の暮らしの中での生活のしづらさを共有し、生活の工夫や取り組みを改めて考えていく必要があると感じた1泊2日となりました。



さばかふえアピランス部パジャマナイト

⑤10代までの小児がん患者・経験者のオンライン交流会「さばかふえジュニア」

2025年度夏から10代までの小児がん患者・経験者にご参加いただけるオンライン交流会さばかふえジュニアがスタートしました。2025年度は計4回開催し、毎回5人程度の少人数で17時30分～19時までの90分、最近のことや学校のこと、友だちとの関わりや大学受験のことなど、同年代だからこそ話題が多くのおぼりました。

⑥小児がん患者・経験者キャンプ2025

2025年度は8月2日～3日の日程でペアレンツハウス大阪にて開催いたしました。小児がん患者・経験者小学3年生～社会人までの11名、医師及び当会職員等を含む合計18名が参加しました。厳しい暑さながらも晴天に恵まれ、1日目はレクリエーションのあと海遊館へみんなで出かけ、夕飯はお好み焼きを食べ、親睦を深めました。ハウスに戻ってからは、自由参加でお話会も開催しました。2日目は、朝からバスで淡路島に向かい、淡路島バーガーとうすしおクルーズを楽しみ、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

⑦スマートムンストーンキャンプ

スマートムンストーンキャンプ(SMS)は、告知されて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象とし、1998年に神奈川県三浦ふれあいの村でスタートしました。第28回となる今回は、キャンプを取り巻く環境が変化してきたこと等々からこの取り組みを終了する最後のスマートムンストーンキャンプとなりました。8月16日～17日の行程で、昨年同様に山梨県北杜市の清泉寮自然学校をお借りし、近年スマートムンストーンキャンプに参加してきた方を対象として開催し、参加者9名、小児がん経験者を中心としたボランティア14名、企画運営の中心となるボランティアリーダー6名、スタッフ7名、事務局1名の計37名が参加しました。参加した皆さんは、開催地到着後からレクリエーションをして盛り上がり、夕食のバーベキューではたくさんのお話をして、キャンプファイアーや花火を楽しみました。お話し会では同じ経験者同士、ふだん話せないことも話すことができた時間となりました。最後に長年にわたりキャンプ開催地となった清泉寮自然学校に参加者皆さんで絵を描いたメッセージボードを贈呈いたしました。スマートムンストーンキャンプを立ち上げた細谷亮太先生、月本一郎先生、石本浩市先生により、開催当初はまだ日本では少なかった告知を受けた小児がん経験者同士が会おうというかけがえのない場が創られ、そして本年度までたくさんの小児がん経験者が参加されました。ご関係の皆さまのご尽力とご支援に感謝申し上げます。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 小児がんピアサポーター研修

①ピアサポーター研修

小児がん患者・家族にとって、同じ問題に直面している仲間(ピア)に寄り添い、ともに考え、支援(サポート)するピアサポーターの存在は、大きな心の支えとなります。一方、同じ経験をしたからこそ同調しすぎてしまうのではないかと、どこまで相談に乗っていいのだろうか、という不安の声も聞かれます。そこで2025年10月～2026年2月までの期間で、毎月1回全5回のピアサポーター研修をオンラインで開催しました。全5回の研修を受講された7名の方に修了証を発行しました。

②ピアサポーターによるオンライン交流会

ピアサポーター研修を修了した方々のご協力のもと、2023年より「治療中・治療後のこと」「小児がんでお子さまを亡くされた親の交流会」とテーマを分けオンライン交流会を開催しています。2025年度も、当会ピアサポーター研修を修了したピアサポーターの皆さまのご協力のもと、オンライン交流会を「治療中、治療後のこと」というテーマで2回、小児・思春期がんでお子さまを亡くされた親の交流会を2回開催し、ピアならではの温かい交流の時間を持つことが出来ました。

(7) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。本年度は2025年9月7日(日)に獨協医科大学病院親の会のひまわりの会と、病気の子どもと家族のサポートグループつぼみの幹事のもと、会場は、栃木県の獨協医科大学病院 看護学部棟をお借りし、ハイブリッド形式で開催、会場に18名、オンラインで6名の15団体24名の参加となりました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。当会では全国の小児がん親の会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は合計28団体/決定金額825,000円の活動費の支援を行いました。

(8) きょうだいの支援

①小児がんのこどものきょうだいたちのキャンプ

小児がんのこどものきょうだい向けのイベントは少なく、出会うや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より小児がん患者のきょうだいのための富士山キャンプを行っていましたが、今年度は2025年7月26日(土)～27日(日)の1泊2日でペアレンツハウス大阪にて開催いたしました。小学1年生から社会人までの小児がんのこどものきょうだい11名とスタッフ・ボランティア・事務局7名の計18名が参加しました。



小児がんのこどものきょうだいたちのキャンプ

1日目はレクリエーションで仲良くなった後に、海遊館でジンベイザメやイルカを見学し、夕食はお好



み焼き屋さんでお好み焼きを食べ、大阪を堪能してハウスに帰りました。2日目はバスで淡路島へ移動、名物の淡路島バーガーを食べ、うずしおクルーズに乗船し、おみやげを買って帰ってくるという行程で充実した2日間を過ごしました。キャンプ中「きょうだいのお話会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。小児がんの子どものきょうだいたちにより“てんとうむし”と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、“子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ”という意味を込めています。小児がんのこどものきょうだい同士が、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感を持てる場として実施しています。開催は、亀戸セミナールームとオンラインのハイブリッドで行い、6月1日に4名の参加者で消しゴム作りやクイズ、10月1日には初開催の関西で特別企画「みんなで六甲山に登ろう！」を実施しスタッフ含め5名が参加しました。12月7日にはクリスマスパーティーを行い11名の参加がありました。いろいろなレクリエーションなどを通じて小学生から成人までのきょうだい同士が関わり合うことができる時間となりました。

③ Sib-Ring Time

Sib-Ring Time は、親御さんからのきょうだいたちが定期的集える場があればいいなというお声を受け、きょうだいを意味する siblings と輪という意味の ring を合わせて Sib-Ring と名付けました。2022年5月に小児がんの子どものきょうだいなら誰でも参加でき、事前申込不要、途中参加・途中退出自由のオンライン交流会をスタートしました。2025年度は2ヵ月に1回、16時30分～18時30分の2時間で開催し、クイズをお互い出し合ったり、好きなものについて話したり、その日の出来事の話もしました。

毎月開催から2ヵ月に1回開催へ変更いたしました。2ヵ月に1回はこどもたちにとって長期間空いた印象となり、少し緊張した雰囲気からスタートする様子が見られました。こどもたちのニーズも感じられるため、2026年度は毎月開催へ変更いたします。

④ Friday night

中学生以上のきょうだいの皆さんから「お話会をもっとしたい！」との要望をいただき、平日の夜にオンラインお話会 Friday night が2025年度スタートしました。

きょうだい自分と同じ仲間と出会う場、心にとめていた想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりを感じられる場、また他愛のない話のできる場として、“きょうだいだから”という話題だけでなく、恋愛や友人関係なども話題にのぼり、年齢が近いからこそ話せる・共感し合える時間となりました。

(9) 車椅子・ウィッグ貸し出し事業

当会では、患児・ご家族、企業からご寄付いただいた車椅子及びウィッグを管理し、治療中や治療後に一時的に車椅子、ウィッグを必要とされる患児・ご家族へ無料で貸し出しをおこなっております。

2025年度の貸し出し件数は2024年度からの継続を含め、車椅子等が7件、ウィッグは3件となりました。

3 研究助成事業

(1) がんの子どもを守る会研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治療、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究のさらなる促進を目的とし、2024年度よりこれまでの「治療研究助成」から「がんの子どもを守る会研究助成」と名称を改めました。小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、35件（助成総額9,100,000円）を以下の通り助成しました。

〈2025年度 がんの子どもを守る会研究助成一覧〉

（助成期間：2025年10月1日～2026年9月30日） * 所属は決定時点

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
荒巻 祐菜	広島大学病院	放射線治療のプレパレーションにおけるシエル作成体験の意義
池田 順治	横浜市立大学附属病院	急性骨髄性白血病の代謝特性を標的とした L-asparaginase 併用療法の開発
井上 健	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	小児がんの臨床研究の基盤となる小児腫瘍病理診断に関する資料の作成および小児腫瘍病理診断の教育研修活動
上原秀一郎	日本大学医学部	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
上山美津穂	関西学院大学 大学院	小児がん患児のスピリチュアルウェルビーイングー健康関連 QOL の視点からー
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大嶋 宏一	埼玉県立小児医療センター	小児・AYA 世代の再発および難治性 T 細胞性急性リンパ性白血病および T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫に対するイサツキシマブ併用化学療法の新規第Ⅱ相臨床試験
大脇 由樹	慶應義塾大学病院	神経芽腫を対象とした年齢別核医学検査プロトコルの最適化と診断精度向上に関する研究
岡 千紘	横浜市立大学大学院	小児脳腫瘍の転帰改善に繋がる医療アクセス格差の改善策の検討
小倉 浩一	国立がん研究センター中央病院	小児・AYA 世代に好発する 悪性骨腫瘍に対する疾患レジストリの構築およびレジストリを活用した骨肉腫の臨床開発の推進に関する研究
加藤 格	京都大学医学部附属病院	小児急性白血病に対する臍帯血移植の成績と予後因子の国際検討研究～国際共同研究による欧州と日本の比較～
金沢 英恵	国立成育医療研究センター	小児がん患児の Well-being を支えるホスピタル・ファシリテイドッグの役割
川原 勇太	自治医科大学	小児がん経験者の晩期合併症および生物学的早期老化における腸内環境解析
岸本 健治	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	地域全患者データを用いた小児がん生存分析：リアルワールドにおける生存率改善の可視化
慶野 大	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター	初発時慢性期および移行期小児慢性骨髄性白血病に対する第2世代チロシンキナーゼ 阻害薬の適正使用に関する研究開発
小村 未来	金沢医科大学	小児がん経験者が感じる「生きづらさ」に繋がる要因
小堀 宅郎	大阪大谷大学 薬学部	小児髄芽腫の治療率向上を目指した細胞内足場タンパク質の阻害に基づく新規免疫チェックポイント阻害薬の開発
小林 隆	新潟大学大学院医歯学総合研究科	mTOR 細胞内シグナル発現機構に着目した肝芽腫薬剤耐性機序の解明および克服
佐々木麻里子	国立研究開発法人国立がん研究センター	ラブドイド腫瘍に対する既存の治療薬および有望薬との相乗効果に基づく併用療法の開発
竹内 正宣	横浜市立大学附属病院	小児・AYA 世代における各種疾患、症候を対象に仮想現実（VR）機器を用いた体性認知療法の有効性、安全性を検討する観察研究
武田 朋也	大阪大谷大学 薬学部	肺微小環境の RANK/RANKL を標的とした骨肉腫肺転移治療法の開発
中野 嘉子	東京大学	小児 / AYA 脳腫瘍のためのリキッドバイオプシー研究
棗田 学	新潟大学脳研究所	髄芽腫における SLFN11 シングルセル解析および再発様式の解明
西村 範行	神戸大学大学院	高リスク神経芽腫患者における微小残存病変（MRD）評価法の開発
西村 雄宏	千葉大学大学院医学研究科	神経芽腫に対する抗 GD2 抗体及び iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法開発
橋井 佳子	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	腸内細菌を利用した小児用経口がんワクチンの開発



檜山 英三	国立大学法人広島大学	小児・AYA 世代に好発する悪性腫瘍に対するシスプラチン投与による内耳毒性を軽減するチオ硫酸ナトリウムの第Ⅱ相試験の完遂
深野 玲司	産業医科大学医学部	デジタル PCR を活用した ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫における予後因子の探索
福光 延吉	神戸陽子線センター	副作用軽減を目指した小児脳腫瘍患者に対する陽子線治療法開発
古金 遼也	千葉大学医学部付属病院	肝芽腫細胞におけるエピゲノム異常に着目した新規治療標的の同定
細谷 要介	聖路加国際病院	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症と QOL の生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
三上 貴司	京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター	急性骨髄性白血病における微小残存病変評価の革新とバイオマーカー探索基盤の確立
森 健	兵庫県立こども病院	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB-NHL-14
吉田 健一	国立がん研究センター	先天性骨髄不全症における造血器腫瘍の早期発見法の構築
吉田 沙蘭	東北大学大学院教育学研究科	小児がん患者の父親の精神的健康およびその関連要因に関する研究

た。ご自身も経験者である山崎選手から、参加した患児、患者、経験者、きょうだい、そしてご家族へエールを送っていただきました。また 2026 年 2 月 8 日、アフラックのご協力のもとアフラックペアレンツハウス亀戸で国際小児がんデー 2026：読売日本交響楽団ミニコンサートとオープンハウス・レモネードスタンドを開催しました。ハウスご利用家族、経験者、きょうだいとご家族が、楽団のメンバーによる弦楽四重奏の音色に感動し、たくさんのご支援を頂戴いたしました。引き続き総合支援センターペアレンツハウスをより多くの方に利用いただくためにイベントを企画してまいります。

なお、アフラックペアレンツハウス大阪の大規模修繕工事を 12 月の 1 か月をかけて実施しました。大阪だけでなく、東京の亀戸、浅草橋のハウスも点検をしっかりと行い、安心・安全に運営を継続してまいります。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数

(2025年4月1日～2026年3月31日) ※ () は前年度
 亀戸 (10室)/134 家族 (150 家族)
 浅草橋 (14室)/307 家族 (236 家族)
 大阪 (12室)/314 家族 (268 家族)

(2) 海外留学助成事業

小児がんに関わる若手の医療者が、海外の医療施設や研究・教育施設等に留学することにより、小児がん医療に関する高度な知見や資格・技術等を得る・取得し、広く小児がん医療及び患児・家族の療養環境の向上に寄与できることを目的として、2 年に 1 回の募集を行い、留学にかかる費用を助成する事業です。本事業は審査機関を一般社団法人日本小児血液・がん学会教育研修委員会に委託し実施しております。

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは、1995 年から東京都中央区の区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として管理・運営をしています。利用料は 1 泊 2,000 円 (寝具等の維持管理費含む) です。2025 年度は海外からのご家族等 1 か月以上の長期間でご利用のご家族を 2 組お受け入れしました。2025 年 4 月 1 日より 2026 年 3 月 31 日までの間は、延べ 11 家族の利用となっています。



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001 年 2 月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004 年 12 月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区北久宝寺町、2010 年 1 月開設）の 3ヶ所あります。小児がんなど小児難病の患児・家族に寄り添う総合支援センターとして運営しております。これまで宿泊部門では、3棟で延べ 164,414 名の方にご利用いただきました。尚、運営に関する費用については、アフラック生命保険（以下アフラック）並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）



▲ 浅草橋

▲ 大阪

の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援も頂きながら運営を継続しています。

2025 年度には、総合支援センターの新たな取り組みとして、イベントを企画し開催いたしました。夏のイベントは 8 月 1 日～ 25 日まで、アフラックペアレンツハウス亀戸にて、夏祭り・縁日、補助犬と触れ合うイベント、ギターを弾こう、小児がん経験者に話を聞こう等、全 16 のイベントを開催し、約 130 人の方がハウスに足を運んでくださいました。また 12 月 20 日には、アフラック、北海道日本ハムファイターズのご協力のもと、北海道日本ハムファイターズの山崎福也選手との交流会をアフラックペアレンツハウス亀戸にて行いまし



夏まつり

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

また、2025 年 11 月、厚生労働大臣宛に、一般社団法人全国がん患者団体連合会と連名にて小児・思春期がん患者の就労支援に関する要望を提出しました。

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
北海道	「ICT を活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)」教育保障検討会議
宮城	東北ブロック小児がん医療体制協議会 宮城県がん患者会・サロン ネットワークみやぎ
福島	東北ブロック小児がん医療体制協議会
関東	がん対策推進協議会 (栃木県) がん対策推進協議会 (東京都) 小児・AYA 世代がん診療連携協議会 (東京都)



新潟	慢性疾病児童等地域支援協議会（新潟県、新潟市）
	がん対策推進協議会（新潟県）
福井	がん委員会
	がん治療相談支援部会
	福井県難病患者団体連絡協議会
	LTCにある子どもと家族の調査及び検討会
静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（静岡県、静岡市）
東海	LTCの子どもの実態調査に関する協議会
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府）
	近畿ブロック小児がん医療体制協議会
	小児慢性特定疾患児童等の保護者の会（堺市難病患者支援センター）
愛媛	がん対策推進協議会（愛媛県）
	慢性疾病児童等地域支援協議会（松山市）
高知	がん対策推進協議会（高知県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
	がん対策等推進協議会（佐賀県）
沖縄	がん対策推進協議会（沖縄県）
	がん診療連携協議会 小児・AYA部会

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2026年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	九州西	レモネードスタンド in SAGA
5月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
6月	新潟	レモネードスタンド（新潟ふるさと村）
7月	新潟	病院がプラネタリウム（新潟県立がんセンター新潟病院）YouTube 同時配信
	富山	グリーンカフェ（氷見市海浜植物園）
	福井	のぞみお話タイム夏祭り（福井大学医学部附属病院小児科病棟プレイルーム）
	関西	のぞみトークきんき 2025 「活動・社会参加を育む小児がんリハビリテーション医療について」
8月	福島	経験者の交流会
	福井	ピアサポートカフェ（敦賀市プラザ萬象 和室）
	高知	小児がん・経験者家族交流会
	九州西	レモネードスタンド in SAGA

9月	福井	「ゴールドリボン・みんなで知ろう！小児がんのこと」 小児がん啓発イベント（主催：小児がん支援団体ネットワーク福井）
	静岡	静岡県健康保健センター合同交流会
	愛媛	市民公開講座「みんながみんなを支える～5年の絆これからの希望～」 （共催：愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座）
9月	九州北	レモネードスタンド in ふくおか 2025（JR博多駅前）
10月	北海道	第7回トリオ・ミーナ小児がんチャリティコンサート
	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
11月	新潟	コープデリにいがたフェスタ 2025「レモネードスタンド」（新潟市産業振興センター）
	富山	グリーンカフェ（高岡おとぎの森公園 こどもの家）
12月	北海道	北大サイエンスフェスタ「小児がんの子どもたちの絵画展」 （チ・カ・ホ [札幌駅前通地下広場]）
	福島	院内クリスマス会（福島県立医科大学付属病院）
	新潟	グリーンキャンドルワークショップ（新潟市中央公民館）
	福井	のぞみお話タイムクリスマス会（福井大学医学部附属病院小児科病棟プレイルーム）
1月	九州北	九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会市民公開講座 「小児がんを乗り越えて～未来を育む長期フォローアップの役割～」ウェブ開催
	富山	グリーンカフェ（高岡おとぎの森公園 こどもの家）
3月	福井	ピアサポートカフェ（鯖江市市民活動センター）
	東海	講演会「～教えて！治療後の生活！～」ウェブ開催
	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム 「長期フォローアップのその先に移行期医療支援を考える」（キャンパスプラザ京都）

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国21の支部幹事を対象に年2回開催しています。2025年度は6月と10月の2回開催しました。11月は2日間に渡り、ペアレンツハウス亀戸とオンラインのハイブリッド形式で開催され、全国の支部から総勢19名の支部幹事が参加し、研修や今後の活動についての意見交換等が行われました。

7 広報・啓発・募金活動等

第30回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2025年11月19日（水）～21日（金）の会期で第67回日本小児血液・がん学会学術集会、第23日本小児がん看護学会学術集会、第30回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが福岡国際会議場にて開催されました。

後援：厚生労働省、こども家庭庁、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム

「小児・思春期がんのこどもと家族を地域で支える」



- ・日 時：2025年11月21日（金）13時50分～15時50分
- ・座 長：田尻達郎先生（第67回日本小児血液・がん学会学術集會会長／九州大学大学院医学研究院小児外科学分野）
植木慎悟先生（第23回日本小児がん看護学会学術集會会長／（九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野）
- ・シンポジスト：「地域で支える長期フォローアップ体制を目指して」
寺田和樹先生（医療法人社団千秋双葉会いなげ未来クリニック院長／成田赤十字病院小児科）
「最期までその子らしく、家族らしく」の時を：小児がんの子どもと家族を地域で支える居場所づくり
濱田裕子先生（下関市立大学看護学部／認定NPO法人福岡こどもホスピスプロジェクト）
「地域で過ごすかけがえのない日々（小児がんの男の子の事例から）」
松尾怜奈氏（相談支援事業遊育園相談支援専門員／遊育園こどもクリニックソーシャルワーカー）
「息子の闘病と看取りを経て 患者家族の立場から思うこと」
三原里美氏（がんの子どもを守る会九州西支部代表／親）
「普通って何だろう？～生まれた時からサイバーの僕が今思うこと～」
松村恵佑氏（がんの子どもを守る会会員／小児がん経験者）
- ・参加者：約130名

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた30点を展示しました。

- ・期 間：2025年11月19日（水）～11月21日（金）
- ・来場者：約750名
- ・助 成：公益財団法人 JKA によるオートレース補助事業



外部講演

今年度も、小児・AYAがんや患者家族への理解を深めていただく場として、下記の講演等の機会をいただきました。

年 月	内 容
2025年7月	がんの子どもを守る会・患者家族の想い (小児慢性特定疾病児童等支援者養成自立支援員研修会)
2025年7月	小児がんについて・小児がん経験者の想い (モルガン・スタンレー・グループ株式会社)
2025年7・9月	小児がん患者会と患者家族の想い (東京大学医学部公衆衛生学実習)
2025年10月	小児がん登録についての課題 (内閣府規制改革推進会議 第6回健康・医療・介護 WG)

年 月	内 容
2026年1月	小児がんについて (聴かせてケロ!!ケロッとカフェ)
2026年2月	がんの子どもを守る会・患者家族の想い (中外製薬株式会社)
2026年2月	がんの子どもを守る会・小児がんについて (明治安田生命保険相互株式会社)

東京マラソンチャリティ Run with HEART 寄付先団体としての活動

2025年度も以下の2つのマラソン大会が開催され、当会も2024年度に引き続き寄付先団体として参加しました。2025年度は4回目の参加となり、合計で40名の方にチャリティランナーとしてご支援いただきました。大会当日（事前の東京マラソンEXPO2026も含む）のブース運営や小児がんや当会の周知広報を行うと共に、多くのランナーと思いを共有することができました。企業ボランティアの方にもご協力をいただきました。なお、ご支援いただいた寄付金はすべて当会の療養援助事業に活用させていただきます。

- ・東京レガシーハーフマラソン2025(2025年10月19日)
- ・東京マラソン2026(2026年3月1日)

2026年度も引き続き東京マラソン財団チャリティ RUN with HEARTに参画して活動を継続します。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

※500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。

チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャリティバッグの頒布を行いました。1,000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。

常設募金箱の設置

店舗のレジ横、医療機関などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で33か所に設置のご協力をいただいております。



支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国 30 か所に設置していただいております。



▲ エコバック



▲ トートバック



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機

機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。2024年度は、下記の4号を発行しました。

号	発行月	内容
第 221 号	2025 年 4 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度年次大会のご案内、事業計画、収支予算、2025 年度 相談会・交流会・研修会等のお知らせ、2025 年度年間スケジュール 東京マラソンチャリティ参加報告 2025 国際小児がんデーキャンペーン報告 SIOP/CCI2024 参加報告 他
第 222 号	2025 年 7 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度 年次大会開催・分科会報告 第 43 回 支部連絡会報告 Global Gold September Campaign 2025 開催のお知らせ、2025 年度奨学生決定のお知らせ 第 30 回 公益財団法人がんの子どもを守る会 公開シンポジウムのご案内 他
第 223 号	2025 年 10 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度 年次大会講演会報告、第 28 回小児がん親の会連絡会報告 小児がん患児・経験者のキャンプ / 小児がんのこどものきょうだいたちのキャンプ、Global Gold September Campaign 2025 実施報告 ペアレンツハウス亀戸 8 月イベント報告 2026 年度 奨学生募集のお知らせ 他
第 224 号	2026 年 1 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 第 30 回公開シンポジウム報告、SIOP/CCI 2025 参加報告 「ゲノム医療と小児がん治療」(後編)、第 44 回 支部連絡会報告 小児がんの子どものきょうだいの交流会「てんとうむし」特別企画 みんなで六甲山に登ろう!、クリスマスパーティー、クリスマスプレゼント報告、ひろば「お子さまを亡くしたご家族の交流会に参加して」 他

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより拡げられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってほしいとの思いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。



■啓発活動など

全国各地の商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーの飾り付け、およびレモネードスタンドなどのチャリティを実施しました。

〈主な協力機関〉(順不同・敬称略)

行政・公共機関等

宮城県、新潟県、栃木県、文京区、大和市立図書館、富山県、伏木図書館、小矢部市、福井県、福井市、福井市総合ボランティアセンター、福井県立図書館、福井城址、福井駅前恐竜広場、大野市、敦賀市、勝山市健康福祉センターすこやか、鯖江市民活動交流センター、桜木図書館、岡山県、岡山市、岡山城、岡山市立中央図書館、オーペピア高知図書館、福岡県、小竹町、宮若市、鞍手町、嘉穂図書館、嘉麻市立図書館、山田図書館、碓井図書館、稲築図書館、織田廣喜美術館、佐賀県、宮崎県

病院等医療機関

北海道大学病院、東北大学病院、宮城県立こども病院、新潟県立がんセンター新潟病院、埼玉県立小児医療センター、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、神奈川県立こども医療センター、富山県がん総合相談支援センター、富山県立中央病院、富山市立富山市民病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、市立敦賀病院、本馬医院、岡山大学病院、国立病院機構岡山医療センター、岡山赤十字病院、岡山済生会総合病院、倉敷中央病院、川崎医科大学付属病院、川崎医科大学総合医療センター、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、岡山労災病院、岡山市立市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、広島大学病院、佐賀大学医学部附属病院、佐賀県健康づくり財団、大分大学医学部附属病院、九州大学病院

教育機関等

一迫商業高等学校、岩ヶ崎高等学校、大島小学校、下村小学校、福井県立大学看護学部、福井医療大学、仁愛女子短期大学、敦賀高等学校、敦賀気比高等学校 IAC、若狭高等学校 JRC 部、鯖江高等学校 JRC 部、若狭高等看護学院、奥越明成高等学校、福井県立聾学校、旭川荘厚生専門学院、豊こども園、豊小学校、西大寺中学校、岡山学芸館高等学校、IPU 環太平洋大学保健室、認定こども園とんの幼稚園

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店の皆さま、清水建設株式会社、武州製薬株式会社 / 武州製薬ユニオン、モルガン・スタンレー・グループ株式会社、株式会社 Fast Fitness Japan、株式会社 Fortune KK、一般社団法人 Empower Children、読売交響楽団、中外製薬株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社第一生命保険、豊川稲荷、コラッセふくしま、リレー・フォー・ライフ・ジャパン みやぎ、宮城こどもホスピスプロジェクト、ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい、蒲田 oluolu、



カメイドクロック、サントムーン柿田川、みやの森カフェ、る・ふっくらん、石川自動車、KitchenSpace & WorksStudio roca、株式会社プレステージ・インターナショナル、CCCT 小児がんのコト親の会、アピアショッピングセンター、ギャラリーと和、富山県富岩運河環水公園、クロスランドおやべ、株式会社スカイインテック、株式会社藤崎、福井県協ビル、福井本丸ライオンズクラブ、みんなの保健室、みいつカフェ、小浜ショッピングセンター、A コープ小浜、アルプラザ鯖江店、大野ショッピングセンター VIO、ラプリーパートナー Lpa、アピタ福井大和田店、カフェ縞、ECODOG、道の駅若狭おばま、MEGA ドンキアピタ敦賀店、兵助株式会社、ブルーライトヨコヤマ、じょんかふえ、ビューティーロマン、スナック絆、和伊和伊亭、焼肉「壇」、オバママ、和宗総本山四天王寺、せんば心斎橋筋商店街、神戸フィルハーモニー管弦楽団、クリスタ長堀、岡山商工会議所西大寺支所、NPO 法人ポケットサポート、株式会社エディオン広島本店、ベーカリーボンジュールネ、pizzeria マルブン南高井店、パティスリーミネット、株式会社南海放送、ワタナベフォトスタジオ、3o-spice、青葉食堂、Flat Chill COFFEE STAND、LE LIEN、小麦の奴隷、Torinchu&CUCCO、東洋電化中央公園、herbspice te-te、meluju、日本郵便株式会社九州支社、福岡県近郊郵便局（若宮、小竹、宮田、鞍手、磯光、新延、宮田桐野、長井鶴、吉川、新北、新多、古月、笠松、行橋西宮市、伝法寺、金田、香春、山田大橋、豊前黒土、中間土手ノ内、直方須崎、飯塚徳前、筑穂）、松ヶ江 LEGEND サッカークラブ、十八親和ペンギンハウス、那覇おもしろまちコープあつぷるタウン

メディア掲載

朝日新聞、NHK、読売新聞、宮城テレビ放送、北日本新聞社、福井新聞、日刊県民福井、こしの都ケーブルネットワーク、ケーブルテレビ若狭小浜、嶺南ケーブルネットワーク、静岡新聞社、山陽新聞社

*その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細は Instagram でもご紹介しております。
<https://www.instagram.com/ccaj1968/>



小児がん啓発月間(Childhood Cancer Awareness Month)の活動 ~Global Gold September Campaignへの協力(継続)~

このキャンペーンは毎年9月の「小児がん啓発月間 / Childhood Cancer Awareness Month」にあわせて国際小児がん学会 (SIOP) が呼びかけているもので、全世界それぞれの地域を象徴する建物、遺跡、橋、自然遺産等を金色にライトアップし、小児がん治療の重要性を啓発するものです。日本では JCCG (日本小児がん研究グループ) が国際小児がん学会 (SIOP) の呼びかけに応じて、2021 年から参加しており当会もその時から協力してきています。

2025 年も各支部の協力のもと、従来からの北海道支部札幌テレビ塔、九州西支部長崎稲佐山山頂鉄塔 (3 塔)、佐賀メディカルセンタービルのライトアップ、愛媛支部の啓発イベントに加えて、2023 年からの関西支部協力の彦根城 (啓発イベントも)、2024 年からの福井支部 (今年度は小児がん支援団体ネットワーク福井として活動) での福井駅前恐竜、福井城址等ライトアップやイベント、宮城支部は医療機関ほかとの連携での伊達政宗騎馬像ライトアップ、さらに本年は福島支部、富山支部、高知支部も積極的に参加しライトアップ、啓発イベントを実施しました。

また、本部事務所 (3 か所) でも光の飾りつけを行うほか、浅草橋でレモネードスタンドを行いました。

8 国際活動

国際小児がんの会 (CCI/Childhood Cancer International) 年次総会への参加

当会は国際活動として長年に亘り、国際小児がん学会 (SIOP/International Society of Paediatric Oncology) と同時期に開催される親の会国際組織の国際小児がんの会 (CCI) 年次総会への参加を公募で募る派遣事業を、小児がん患児の親及び小児がん経験者を対象に実施してきました。本事業は、より多くの親や経験者の方々が国際的な小児がん患者・家族支援の活動に直接触れる機会を持つことにより、グローバルな視点で患者・家族支援活動とその使命について考えていただくことを目指しています。今年度は 2025 年 10 月 20 日～23 日にオランダのアムステルダムで開催された第 31 回 CCI 世界大会に、当会から山下理事長、評議員の園部かおるさんの参加と経験者 1 名の派遣を実施しました。

なお、CCI の加盟団体は、2025 年 10 月現在 100 ヶ国 217 団体となり、活発な活動が続いています。

PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

開発途上国等の国際小児がんの会 (CCI/Childhood Cancer International) 年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に 600 ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業 (アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度)

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014 年度より奨学金の給付を開始しました。2015 年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店 (アフラック全国アソシエイツ会) の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対象者

- 18 歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
- 給付開始時に高等学校等に在学中の方。
- 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

対象となる教育機関

「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

給付金額

- 月額 20,000 円
- 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
- 奨学金の返還は原則不要。

2025年度実績

小児がん経験者：助成件数 77 件 (高 1…17 件、高 2… 30 件、高 3… 30 件)
 が ん 遺 児：助成件数 315 件 (高 1…75 件、高 2…100 件、高 3…140 件)
 合 計：助成件数 392 件 (高 1…92 件、高 2…130 件、高 3…170 件)
 給 付 金 額：93,580,000 円



10 ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ340人（うちペアレンツハウスボランティアとして196名）からボランティア協力をいただきました。本年度は、会報発送作業をはじめクリスマスプレゼントの発送や国際小児がんデーキャンペーンの準備、ペアレンツハウスの環境整備など様々な活動を担っていただきました。また初めてボランティアの登録をされた方には研修を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなど理解を深めていただきました。

11 調査研究協力

2025年度の当会への調査研究に関連する協力について下記4件について調査研究委員会の承認が得られました。

研究名称	協力内容
「学校でのお困りごと」に関する実態調査アンケート 申請者 親子に寄り添う連携支援プロジェクト（通称：おこぶろ） 代表：大澤 裕子氏	小児がん患児家族（親）に対するWebアンケート
就労期の小児がん経験者へのWeb運動プログラムのパイロットランダム化比較試験 申請者 福井 郁子先生 聖路加国際大学大学院 小児看護学教室	0～15歳未満のときに白血病または悪性リンパ腫と診断された方で、現在18歳～39歳の方、がん治療終了後5年以上経過した方に、働く世代の小児がん経験者の運動量を増やすWebプログラム実施
「子どものアピアランスケアに関するアンケート」 申請者 一般社団法人チャームケア 代表：石嶋 瑞穂氏	小児がん罹患し、治療中または寛解期の子ども（18歳までを対象）、その保護者に対するWebアンケート
「小児がん経験者の成人後の健康管理および移行期医療に関する経験・ニーズの調査」 申請者 清水 千佳子先生 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター がん総合診療センター センター長	18歳以上の小児がん経験者の方を対象に、成人医療への移行準備の経験、医療の利用状況、現在の健康管理の方法や支援ニーズについてWebアンケート

12 年次大会

2025年6月8日（日）「総合支援センターとしてのペアレンツハウスのこれまでとこれから」～子どもと家族のために何ができるか～をテーマに年次大会を開催しました。本年度も会場とライブ配信のハイブリッドで開催し、約150名の方にご参加いただきました。講演については「のぞみ」222号・223号に前編・後編に分け講演録を掲載し、報告しました。

①講演会1

総合支援センター・ペアレンツハウスのこれまでとこれから

1. トータルケアの理念について 当会副理事長 細谷亮太
2. ペアレンツハウスのこれまでとこれから 当会副理事長 近藤博子

②講演会2

療養を必要とする子どもたちやその家族のための施策

子ども家庭庁成育局成育環境課長 安里賀奈子氏

13 クリスマスプレゼント

本年も、当会全国21か所にある支部・小児がん親の会・経験者の会などを通して全国の病院やご自宅で治療・療養生活を送っている子どもたちへクリスマスプレゼントをお贈りしました。



企業様・個人の皆様から素敵なプレゼントをお贈りいただき、amazonウィッシュリストを通じても150件近いお品物を頂戴しました。またYahoo! ネット募金には3,400名を超える方々からお気持ちを寄せていただき、おもちゃ、文具、クリスマスプレゼント帽子やぬいぐるみ、カードゲーム、絵本など多岐に渡る品物を、全国80か所の医療機関や施設などの約1,500人の子どもたちにお届けすることができました。プレゼントを受け取った子どもたちだけでなく、親御さま、医療関係者の方々からもクリスマスのひと時を笑顔で一緒に過ごすことができたことと感謝の言葉が届きました。

ご支援いただいた皆様

アフラック山形県アソシエイツ会事務局、エア・ウォーターメディカル、子供地球基金事務局、スタイリングライフ・ホールディングス、東京上野東ライオンズクラブ、東京中央南ライオンズクラブ、ニューエラジャパン、モルガン・スタンレー、及び大勢の個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。

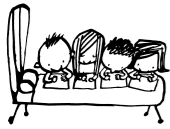
14 物品・ボランティアのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

アフラック生命保険株式会社、アフラック全国アソシエイツ会、エニタイムフィットネス、大木 綱雄、織田 喜一、オルビス株式会社、金巻 裕樹、株式会社晃和ディスプレイ、株式会社インフォレント、株式会社大和証券グループサステナビリティ推進部、株式会社なゆた、クオック ミッシェル、小松 仁、阪本 真理子、佐々木 真一、人権特別委員会（高松第一高等学校）、全国心臓病の子どもを守る会、高木信隆、田中亜希子、土屋 健治、デニスジャパン（日仏貿易株式会社）、東海支部幹事 大橋孝次、戸谷 秋子、日本データカード株式会社、認定NPO法人キープ・スマイリング、早川 仁美、松田優子、三上正美、水戸好文ロータリークラブ、モルガン・スタンレー・グループ株式会社、橘田えみ、社会福祉法人 おあしす福祉会、小林 秀之、菅原 さとみ、第一三共ヘルスケア株式会社、中 弥生、鳥谷 美代子、浜岡 千枝子、法人わたしがんnet 羽賀 涼子、The Pink Force Foundation、鈴木 大翔、吉井 真紀、東京コーポレートブロックアソシエイツ会、アフラック京都支社、圖師（小児脳腫瘍AT-RTの会）、アフラック富山県アソシエイツ会、第一生命あべの 営業オフィス 庄司 美喜子、株式会社保険オフィス さとう 佐藤 尚恵、モルガン・スタンレー MUFG 証券株式会社、第一生命本町事業所、株式会社第一総合企画、アフラック東京法人第二営業部、前田 木綿子、アフラック青森県アソシエイツ会、田島 幸美、西村 英恵、井部 美恵、アフラック秋田県アソシエイツ会

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、第一生命保険株式会社本町営業所、株式会社星和ビジネスリンク、マルホ株式会社、モルガン・スタンレー・グループ株式会社、Okta Japan 株式会社



寄付・募金者一覧

(2025年4月1日～2026年3月31日)

寄付・募金者一覧



寄付者一覧

※敬称略

ACワークス株式会社 BeiGene Japan合同会社 COCT小児がんのこト組の会 定塚 ますみ 株式会社 CES 緑研究所 FA商事株式会社 NPO法人 北海道ファミリーハウス SERENE Advisory 合同会社 櫻井 真寿美 Sfida株式会社 緑川 尚男 相川 勝 愛知製鋼株式会社 総務・人事部 渉外広報室 相羽 應毅 青江 知彦 青木 康二 青木 聡美 青木 友子 青木 典子 青木 嘉江 青木 紗仁 青森山田こども園 青山 のぞみ 赤枝 良人 赤木 千佳 秋田 智之 秋月 孝信 秋本 俊治 秋山 恵子 秋山 由里子 株式会社 アコーセラミック 朝倉 徹次 浅田 博司 浅見 恵子 浅見 美紀 芦原 佳奈 アストラゼナカ株式会社 あすなる会 あすなる投資顧問 東 博行 東商品株式会社 アフラック青森県アソシエイツ会 アフラックアソシエイツ会北海道ブロック アフラック石川県アソシエイツ会 アフラック岩手県アソシエイツ会 アフラック愛媛県アソシエイツ会 アフラック大分県アソシエイツ会 アフラック大阪総合アソシエイツ会 アフラック岡山県アソシエイツ会 アフラック沖縄県アソシエイツ会 アフラック香川県アソシエイツ会 アフラック鹿児島県アソシエイツ会 アフラック北九州アソシエイツ会 アフラック岐阜県アソシエイツ会 アフラック京都府アソシエイツ会 アフラック近畿法人アソシエイツ会 アフラック熊本県アソシエイツ会 アフラック広域法人アソシエイツ会 アフラック高知県アソシエイツ会 アフラック神戸総合アソシエイツ会 アフラック埼玉総合アソシエイツ会 アフラック佐賀県アソシエイツ会 アフラック札幌総合支社 アフラック滋賀県アソシエイツ会 アフラック島根県アソシエイツ会 アフラック収納サービス株式会社 アフラック収納サービス株式会社 松田佐枝子 山本 早紀子 アフラック湘南アソシエイツ会 アフラック生命保険株式会社 提携戦略部 アフラック生命保険株式会社 社会公共活動推進室 アフラック道央アソシエイツ会 アフラック東海法人アソシエイツ会 アフラック東京コーポレートブロックアソシエイツ会 アフラック東京総合アソシエイツ会 アフラック東京第一法人アソシエイツ会 アフラック東京第二法人アソシエイツ会 アフラック道東アソシエイツ会 アフラック道北アソシエイツ会 アフラック栃木県アソシエイツ会 アフラック鳥取県アソシエイツ会 アフラック富山県アソシエイツ会 アフラック長崎県アソシエイツ会 アフラック長野県アソシエイツ会 アフラック奈良県アソシエイツ会 アフラック新潟県アソシエイツ会	アフラック沼津アソシエイツ会 アフラック八王子アソシエイツ会 アフラック浜松アソシエイツ会 アフラック姫路アソシエイツ会 アフラック広島県アソシエイツ会 アフラック福井県アソシエイツ会 アフラック福岡総合アソシエイツ会 アフラック福島県アソシエイツ会 アフラック保険サービス株式会社 アフラック町田アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 アフラック水戸アソシエイツ会 アフラック宮城県アソシエイツ会 アフラック宮崎県アソシエイツ会 アフラック山形県アソシエイツ会 アフラック山口県アソシエイツ会 アフラック山梨県アソシエイツ会 アフラック横浜総合アソシエイツ会 アフラック和歌山県アソシエイツ会 阿部 咲子 阿部 光恵 安部 ゆき アポットジャパン株式会社 天野 功二 天野 祐作 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 孝史 新井 誠 新井 正男 荒尾 正人 荒木 真悟 新本 古都 有澤 愛 ALSOK 株式会社 安齋 紀 安藤 直之 安藤 七星 飯倉 安隆 飯島 佐和子 飯塚 敦夫 五十嵐 彰 五十嵐 香織 五十嵐 匠真 生田 千穂 井口 真理子 池田 修子 イケダ マリ 池羽 啓次 伊佐 龍寿 石井 あすか 石井 佳代子 石井 希実 石井 正之 石上 久美 石川 生恵 石川 孝成 石川 幸雄 石川 利奈 石坂 美貴子 石原 節子 石原 貴泰 伊豆箱根鉄道株式会社 生活事業部 保険課 小田原支店 泉 美恵子 出水ライオンズクラブ 磯部 直美 井田 正美 板持 貴之 市川 雅浩 市田 涼子 一瀬 すみ 市之瀬 光恵 一ノ瀬 美登里 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 株式会社 伊豆箱根鉄道株式会社 一般財団法人 TOPPAN 三幸会 一般社団法人 全国信用金庫協会 一般社団法人 全国信用金庫協会 一般社団法人 ジャパンバンククラブ 大阪ブロック協議会 一般社団法人 信託協会 一般社団法人 生命保険協会 一般社団法人 全国銀行協会 総務部 一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会	一般社団法人日本ガス協会 総務部 一般社団法人日本建設業連合会 一般社団法人日本自動車工業会 総務部 一般社団法人不動産協会 事務局 井手 眞弓 伊藤 晶子 伊藤 恵美 伊藤 かつこ 伊藤 慎一 伊藤 貴正 伊藤 春香 伊藤 弘美 伊藤 正博 伊藤忠商事株式会社 福岡 伸哉 稲垣 久美子 稲留 愛李 稲畑産業株式会社 井上 亜希 井上 彰子 井上 清美 井上 桂樹 井上 敏 いのちのことば社 ライフ・クリエイション 大野 潤哉 岡倉 慶子 株式会社 OKAZAKI 岡崎 昌世 今井 淳之 今井 正 今井 干速 今泉 貴仁 今瀬 聡 井柳 和光 伊豫田 しのぶ 医療法人三幸会 小澤診療所 医療法人社団もほけ会武蔵村山さとうクリニック 岩池 俊宏 岩尾 芳秀 弁護士 岩上 公一 岩高 Lemons 岩佐 浩樹 岩崎 祐子 岩下 寿秀 岩田 郁実 岩田 任真 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 岩本 浩久 上田 崇志 上瀧 大 花田 裕子 オーピーエス有限公司 臼井 宏子 宇田川 しほり 宇野川 亨 内田 貞輔 内田 道治 内野 雅子 海のそばのカフェ bliss point 梅木 尚子 梅原 裕子 瓜生 久美子 イーザイ株式会社 筑波研究所 AGC マイクロガラス株式会社 株式会社 Agent 代表取締役 梅田慶 ABCヘルスクラブ 江尻 高賀子 櫻戸 清美 遠藤 晋司 遠藤 春義 遠藤 秀幸 遠藤 美知花 大石 恭代 大分県西部保健所 大分市保健所 大河原 貴 大木 綱雄 大串 明子 大蔵 隆彦 大阪府宅地建物取引業協会 中央支部 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 大塩 知孝 大島 泰子 大城 寿賀子	大須賀 由香 太田 浩史 おおたかの森レモネードの会 大谷 耕司 大谷 洋行 大谷 恵子 大津 真由美 大塚 理子 大塚 康行 大塚 恒夫 大家ウエルネスベンディング株式会社 高岡 文博 大坪 暖 大坪 哲郎 大西 文平 大野 美咲 大野城ライオンズクラブ 大場 学 大橋 千佳 大橋 桃太郎 大原小児がん基金 大日向 翔 大年田ライオンズクラブ 大森 豊寛 大山 潤哉 岡倉 慶子 株式会社 OKAZAKI 岡崎 昌世 小笠原 友美 岡島 真理子 岡田 智美 岡橋 俊行 岡村 栄 和歌山県親のつどい実行委員会 岡本光代 小川 英穂 荻野 遼 奥越明成高校募金活動 Okta Japan 株式会社 奥野 啓介 奥野 達也 奥村 和徳 奥山 貞光 尾崎 亜矢子 長田 明子 オザックス株式会社 小澤 綾子 小田切 洋司 越智 しのぶ 落合 章 小野 智久 小野 裕也 小野 昌美 おのうえこどもクリニック 小野崎 慎 小野寺 宇嗣子 小野寺 秀子 小野薬品工業株式会社 総務部 加圧&パーソナルトレーニング ASOBINOBA 大野 裕子 海田 由美子 香川大学医学部付属病院 垣浦 美栄 柿崎 真沙子 柿原 稔永 株式会社 Agent 代表取締役 梅田慶 角田 正樹 加倉 秀章 景山 高行 鹿児島ファミリーライフサービス 株式会社 加崎 浩典 笠原 秀幸 風間 祐介 梶原 敦子 嘉重 弥紘 柏木 圭子 柏木 直哉 柏木 玲一 柏崎 光芳 柏原 郁子 鹿住 京子 勝浦 広基 勝野 文朗 勝野 伸介	加藤 鐵雄 加藤 友和 加藤 廣久 加藤 貢 加藤 実穂 加藤 佑弥 門田 篤哉 金川 亜紀子 金子 早紀 金澤 零 金山 直司 金子 武行 金子 由紀子 金田 富美子 兼松株式会社 株式会社 ガウラ 株式会社 グローピング代表取締役 堀江貴嘉 株式会社 エムデジ 株式会社 ENJIN 株式会社 共栄会保険代行 株式会社 スズキ興産 株式会社 ANSWER 株式会社 CBCラジオ 株式会社 CFP 株式会社 JKS 株式会社 PlayPlayDesignOffice 太田 雄介 株式会社 S フィットネス 株式会社 WORLD G8 株式会社 アイビージェイ 社員一同 株式会社 赤松 株式会社 アクティヴワン 廣川 明人 株式会社 ATHREE CANVAS HOLDINGS 株式会社 イニシャル 三好 尚成 株式会社 今与 株式会社 いろは 木幡 義則 株式会社 上野ベース 株式会社 ウメザキデザイン 梅崎 芳憲 株式会社 梅原洋紙店 城南堂薬局 株式会社 エフピーワークス 株式会社 グッドマン警備保障 押田 美奈 株式会社 クラシード 株式会社 グリーンオーシャン 株式会社 ケインズ 株式会社 神戸製鋼所 総務部 株式会社 KOHATAホールディングス 株式会社 埼玉りそな銀行 草加支店 株式会社 阪口メンテナス 株式会社 サニクリーン東京 株式会社 サラインテリアシステム 株式会社 サン・フラックス 株式会社 三和コーポレーション 岩城 香 株式会社 シーク 株式会社 シェア・アライアンス 大野 高志 株式会社 高島屋 玉川店 株式会社 ドゥーエル 株式会社 ドゥワーク 株式会社 ドール 株式会社 栃木ファミリー 株式会社 トビーレック 株式会社 朋コーポレーション 営業部 赤羽 史明 株式会社 トライアード 株式会社 TRACK ONE 株式会社 トリリオン 趙 元来 株式会社 日商エイジェンシー 株式会社 ハシオ 株式会社 原トラスト 株式会社 ビーエル 株式会社 ビースワフ 株式会社 ビルダリッジ 株式会社 Fast Fitness Japan 株式会社 フタナ・インターナショナル 株式会社 healthier-happier 株式会社 北海道日本ハムファイターズ 株式会社 ポニーキャニオン 株式会社 みずほ銀行 浦和法人部 株式会社 三井E&S 株式会社 三菱UFJ銀行 新宿新都心支店 株式会社 UNILABO 株式会社 ヨドコウ 総務部 株式会社 ライスクリエイトイティブ 国吉 裕哉 株式会社 リンクフロンティア 鎌田 政之 神藏 栄市 亀井 加代子 亀井 沙季 亀倉 里恵 鴨作 卓弥 軽部 裕美子 川井 敦	川上 武則 川口 弘二 川崎 道子 川添 瑞枝 河出 トシ 川平 有紀 川藤 等 川又 幸夫 河本 昌範 河本 真由子 神崎 久子 木口 麻美 菊地 里子 菊池 恵子 菊池 睦美 岸田 恭二 岸本 由紀子 北川 光 北澤 宏 北島 英恵 北原 義明 北村 薫 北村 澄人 キッコーマン株式会社 秘書部 城戸 新一郎 木戸 幸枝 木下 成顕 木原 陽佑 木村 吉隆 きもべつ喜らめきの郷 キャノン株式会社 キャノンメディカルシステムズ株式会社 九州大学病院 協同組合 大野商業開発 星野 共立インシュアランス・ブローカーズ株式会社 協和キリン株式会社 清戸 唯 きらら保険サービス株式会社 レモネードスタンドしまね 日下 みゆき 日下 みゆき 株式会社 草むしり 楠井 晶 忽那 博司 工藤 亜弓 工藤 聡平 久保 香 久保木 裕子 久保田 一男 熊谷 晋也 熊谷 則一 熊谷 佳久 熊本歯科衛生士専門学校 倉敷中央病院がん相談支援センター 倉田 知展 倉本 雷博 栗野 勝義 栗原 大 栗山 巧 (埼玉西武ライオンズ) 栗山 宣夫 樹沢 静枝 暮部 勢子 黒木 智 黒島 花梨 黒田 綾子 黒田 一史 黒鳥 一恵 黒羽 薫 桑原 茉莉子 ケイ・インターナショナルスクール ゲンダイエージェンシー株式会社 県立大学看護学部&本丸ライオンズクラブ有志 小池 諭 小石 誠二 公益財団法人 神奈川県予防医学協会 木村 俊雄 公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 公益財団法人 お金をまわそう基金 公益社団法人 益田法人会 幸田 有記 高知医療センター すこやかA 神門 康子 合同会社イーグル 河野 琢真 光野 優 トリオ・ミーナ 神戸 智子 興和株式会社 古賀 友紀 コカ・コーポラトラーズジャパン株式会社 コカ・コーポラトラーズジャパン株式会社 宗像支店 古賀印刷株式会社	小嶋 一郎 児島 将康 小杉 千晶 故選 正法 島尻 鮎子 島尻 章弘 後藤 敦子 後藤 雅 後藤 直子 後藤 良子 小八重 英子 小嶋川 南 小林 純子 小林 智尋 小林 直也 小林 範子 小林 芳照 小林 伶 小原 太志 小松 喜久子 小松 里榮 小松 広道 小峰 彰拓 小宮 毅 込山 雅人 小室 祐理恵 近藤 恭輔 近藤 博子 最所 健悟 財津 克典 斎藤 孝 齋藤 美保 齊藤 勇人 佐伯 真樹子 酒井 あゆみ 酒井 勝司 酒井 恵三朗 酒井 信夫 北浜法律事務所 酒井 奈緒子 堺 久枝 酒井 三貴子 神原 悠児 神原 義夫 佐賀県健康福祉政策課がん撲滅特別対策 坂下 えい子 坂本 明夫 坂本 翔太 坂本 哲男 坂本 麻衣 坂元 政博 坂本 玲子 嵯峨山 聖子 佐川 千佳 崎永 美由紀 佐久田 朝功 関口 美佐子 世古 佐和子 芹田 千晶 株式会社 ZEROPLUS 株式会社 相建 双日株式会社 園 克彦 第一興産株式会社 第一生命保険株式会社 南大阪支社 第一生命労働組合 京都営業本部 コンサルティング営業室 第一生命労働組合 浦和支部 第一生命労働組合 大阪北支部 第一生命労働組合 南大阪支部 だいき動物病院 高橋 大記 大同特殊鋼株式会社 総務部 大石 石村・ロックハート城 大和ハウス工業株式会社 大和ハウス工業株式会社 茨城支店 岡崎 洋平 多賀 哲男 高江洲 義尚 高木 猛 高木 桃李 高田 明子 高田 尊信 高塚 文 高遠 勲 高橋 克之 G.B.C株式会社 高橋 健司 JFEスチール株式会社 総務部総務室 高橋 建太 高橋 繁雄 高橋 晶子 高橋 大輔 高橋 光明 高橋 竜一	篠田 隆 柴田 京子 渋江 美恵子 澁江 美加 島尻 鮎子 シマソエ トモヒロ 島田 隆正 島野 忠之 清水 純一 清水 孝夫 清水 拓也 清水 信夫 志水 運佳 清水建設株式会社 公益財団法人おしほ福祉ピアワーク・オアシス 藤野 賢 周東 佑京 (福岡ソフトバンクホークス) シユテーム坂戸 庄司 千亜紀 庄司 ひろみ 青龍寺 綾乃 小松 里榮 小松 広道 小峰 彰拓 小宮 毅 込山 雅人 小室 祐理恵 近藤 恭輔 近藤 博子 最所 健悟 財津 克典 斎藤 孝 齋藤 美保 齊藤 勇人 佐伯 真樹子 酒井 あゆみ 酒井 勝司 酒井 恵三朗 酒井 信夫 北浜法律事務所 酒井 奈緒子 堺 久枝 酒井 三貴子 神原 悠児 神原 義夫 佐賀県健康福祉政策課がん撲滅特別対策 坂下 えい子 坂本 明夫 坂本 翔太 坂本 哲男 坂本 麻衣 坂元 政博 坂本 玲子 嵯峨山 聖子 佐川 千佳 崎永 美由紀 佐久田 朝功 関口 美佐子 世古 佐和子 芹田 千晶 株式会社 ZEROPLUS 株式会社 相建 双日株式会社 園 克彦 第一興産株式会社 第一生命保険株式会社 南大阪支社 第一生命労働組合 京都営業本部 コンサルティング営業室 第一生命労働組合 浦和支部 第一生命労働組合 大阪北支部 第一生命労働組合 南大阪支部 だいき動物病院 高橋 大記 大同特殊鋼株式会社 総務部 大石 石村・ロックハート城 大和ハウス工業株式会社 大和ハウス工業株式会社 茨城支店 岡崎 洋平 多賀 哲男 高江洲 義尚 高木 猛 高木 桃李 高田 明子 高田 尊信 高塚 文 高遠 勲 高橋 克之 G.B.C株式会社 高橋 健司 JFEスチール株式会社 総務部総務室 高橋 建太 高橋 繁雄 高橋 晶子 高橋 大輔 高橋 光明 高橋 竜一
---	---	---	---	---	--	--	--



<p>高原 淳一 高松 千穂 高宮 静男 高本 誠也 高本 孝子 高山 香世 玉田 星 多木 裕加里 武石 香 竹内 エレニ 竹内 邦恵 竹内 次郎 竹内 将貴 嶽小原 恵 竹下 淳也 竹島 開 竹島 翔一 武田 鉄郎 竹中 玲央奈 人吉ライオンズクラブ 竹原 輝紀 武山 ゆかり 田島 洋佑 田代 智之 多田 大輔 立野 昌宏 立野 寿美子 田中 達男 田中 博人 田中 雄 谷加奈子 谷川 英士 谷口 真理子 谷山 健太郎 田野 昭 田畑 慎也 田淵 由依 田部井 靖典 玉井 宏明 玉川 京子 玉川 迅 田村 幸喜 田村 公美 樽井 文 壇 緑 丹田 紀水 丹野 泰 千明 亜実 筑前東部地区協会 茅野 文穂 中外製薬株式会社 教育啓発活動支援窓口 中外製薬ビジネスソリューション株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 中鉢 慎 張 光陽 丁田 美奈子 調布市 福祉保健部健康推進課 蝶理株式会社 ツァン コエンシューエン ツァン株式会社 塚本 敏彦 月岡 千明 月田 誠一 有限会社 築地にしん太助 柘植 綾子 辻 尚人 辻林 温子 土屋 開智 土屋 扶美代 つながる7レモネード 津波 和枝 つねかわみのり 坪井 亜樹子 坪井 映子 坪田 起久恵 福井県立聾学校 柳澤 知子 鶴岡ライオンズクラブ 鶴田 京子 帝京大学ボランティア団体ワッチャム 松井 啓祐 DINH THI KHANH 手島 健太 寺井 昇 寺岡 智子 寺田 圭佑 寺田 駿太 寺田 昌史 電気事業連合会 総務部 秘書課 戸石 久仁子 東京都立小児総合医療センター 東京マリオートホテル 東條 岳</p>	<p>東城 千春 東西 美沙子 東邦電気工業株式会社 大阪支店 百目鬼 恵子 當山 美桜 渡海 至康 砥上 梨枝子 徳永 育美 徳永 真一郎 徳野 文朗 土手 多喜子 殿畑 正生 トビー工業株式会社 飛田 良 富岡 晶子 富田 基生 富村 恵美子 富本 愛美 友永 恵子 富山福祉短期大学 豊田通商株式会社 豊通保険パートナーズ株式会社 トライムボランティア連合 内藤 久美 内藤 龍平 中 聡之 永井 崇 永井 武志 中井 千種 中尾 憲治 中尾 隆志 中川 真規子 中川 美香 長久保 佳祐 長倉 輝明 中米 千恵 長坂 敏幸 長崎 真 中澤 和男 長沢 和久 中澤 智史 中澤 博 中澤 弘美 中島 江実 中嶋 幸生 中島 麻里 永島 理恵 長瀬産業株式会社 中田 敦士 中田 綾香 中田 恭介 中田 巧 中田 真人 中谷 千春 仲出 雄樹 仲西 華子 中野 裕昌 中野 裕美 中野 浩之 長野 美紀子 長野 より子 永原 勢津子 中前 佑 中村 麻子 中村 一晴 中村 和路 中村 桂井子 中村 孝基 中村 大介 中塚 光康 中村 美由紀 中村 玲子 有限会社 中村産業 仲本 千佳子 中山 あすか 中山 詞美 中山 恵介 新村 昌弘 西 正 西 洋美 西浦 幸司 西岡 陽平 西坂 明子 西田 知佳子 西田 幸夫 西田 陽子 西出 穂 西部 雅 西宮 成幸 西村 桃佳</p>	<p>西森 幸子 株式会社 日幸金属工業所 新田 友理 日鉄物産株式会社 福島 由佳子 二宮 早希 日本医科大学千葉北総病院 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 日本保険センター株式会社 日本労働組合総連合会 株式会社 ニヤクコーポレーション 庭前 裕樹 認定特定非営利活動法人 朴の会 布川 伸子 沼田 聡美 ノイエス株式会社 直方ライオンズクラブ 野田 広 野田 文美 野知 有郁子 ノバルティスファーマ株式会社 延 浩子 延田 尚史 野村 博 野村 佳正 野村證券株式会社 株式会社 焙煎珈琲 裏通り 波木井 貴子 萩原 明子 橋口 絵美 橋立 道生 橋山 優子 橋本 寛二 橋本 幸子 馬上 星一 馬上 豊 ハセガワ ケイ 初瀬 茂美 服部 忠 濱 麻人 濱 克彦 濱 雄司 濱中 崇至 濱野 幸枝 浜本 和子 早川 晶 早河 みゆき 早河 兼義 林 昭子 林 恵利 林 弘和 早田 千鶴子 原 静香 原口 真規子 原田 圭祐 原田 浩次 原田 修平 原田 徹 原田 智紀 原田 真由子 原田 祐香 坂東 豊 阪和興業株式会社 日開 朝美 樋口 厚子 火ノ川 好信 株式会社 石川自動車 氷見 三佐子 株式会社 Human 平 信義 平井 五郎 平井 伸一 平井 大士 平川 浩紹 平瀬 友博 平野 直樹 平野 富紗子 平野 美紀 平林 一恵 平山 忠之 比留川 理絵 ファリーダ・ラーマン 株式会社 ファンコミュニケーションズ ブイザー タイン 株式会社 Fortune KK 深澤 晋 深田 千賀子 福井 涉 福岡 裕嗣</p>	<p>福岡黒田ライオンズクラブ 福岡県立鞍手高等学校 生徒会 福岡県立鞍手高等学校 家庭科部 福岡徳洲会病院 福島 由佳子 福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター 鈴木 すみえ 福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター 湯田 ゆかり 福田 雅旨 福田 佳子 福地 誠一郎 福山 朋子 富国生命保険相互会社 富国生命保険相互会社名古屋支社 富国生命保険相互会社金沢支社 阪井 雅子 藤井 広彦 藤枝 由紀 藤澤 裕子 藤田 志麻子 藤田 幸子 藤田 久恵 藤田 瑞恵 藤田 裕美子 藤仲 功二 藤永 詩乃美 株式会社 フジヘルスプランニング 藤村 正 藤村 瞳 藤本 慎介 藤本 敏彦 藤山 優子 武州製薬株式会社 藤原 香代美 馮 天陽 普通鋼電炉工業会 武馬 深雪 Precor Japan 株式会社 古尾谷 佐代子 古川 美貴 ブルデンシャル生命保険株式会社 福岡支社 普通士学園 宗教委員会 文京区 平地 洋介 別所 文雄 ヘルスハピネス株式会社 ヘルテック トレーディング株式会社 株式会社 ベルライフ 何 沐霏 何 亜倫 何 雨霏 坊岡医院 放課後デイサービス さくだいら キッズらぼ岩村田教室 株式会社 星企画 細川 紀美代 細田 裕美 佛坂 智仁 穂波ライオンズクラブ ほのぼのサロン 高橋 美枝 堀内 久美子 堀川 哲男 堀越 拓視 本馬医院 前島 希 前田 一帆 前田 晃代 前田 紀子 前谷 佳代子 牧野 実瑠 正井 佳子 増田 雅史 榎谷 真 又川 日美子 町田 修一 松井 つね子 松浦 英子 松岡 七海 松熊 光子 松阪 直美 松田 信夫 松谷 佳代 松谷 智子 松永 憲一郎 松野 学 松原 香織 松村 伸子 松本 千賀子 松本 登紀子</p>
--	---	---	---

<p>松本 陽代 マツモト ヨシコ 眞鍋 三恵 丸谷 由美子 丸紅株式会社 マルホ株式会社 丸山 真理 丸和バイオケミカル株式会社 みいつカフェ 三浦 厚子 三浦 淳子 三浦 ひろ子 三浦 浩幸 三浦 稜平 三上 正美 三川 勝夫 神子 巧照 三澤 易功子 三澤 文博 水江 伸夫 水代 富雄 三田 武志 三田 幸枝 道信 千夏 三井住友信託銀行 浦和支店 三井物産株式会社 光田 美津子 三橋 昌範 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 三戸 涉 御堂21 倶楽部 峯尾 聡子 峰岸 透 みのうら えりな 三原 里美 三船 隆嗣 宮城県一迫商業高等学校 都 京花 宮坂 公子 宮里 裕子 宮澤 敦子 宮司 尊子 宮下 希喜 宮田 和代 宮の台幼稚園バザー委員会 宮原 伽奈</p>	<p>宮部 浩之 宮本 成人 宮本 英樹 御代川 和寿 三好 由美 みんなで知ろうがんのこと栃木 向川 茂 宗廣 由佳 村上 久幸 村上 道子 村瀬 春美 村穂 克彦 村松 愛 村松 毅 村山 将人 室谷 哲哉 目黒 正規 妻鳥 毅史 毛利 将吾 モーニングコンサートの会 白石 元島 美佐子 元田 雅弘 ももか&ひより おいしいレモネード屋さん 森 克嘉 森 賢治 森 康司 盛 麻理子 森 実佳子 森 陽子 森 善樹 森田 拓 森谷 香子 もりちゃんあさがお募金 森永製薬株式会社 山崎 泰男 森永乳業株式会社 人財部労政企画グループ 東本 森乳スマイル倶楽部 人財部労政企画グループ 東本 森満 美枝 森山 康基 森脇 浩一 森脇 哲治 モルガン・スタンレー・グループ株式会社 八重樫 智子 やさしさの花束 安井・好川・渡辺法律事務所 安中 直樹 柳澤 隆昭 矢野 愛世</p>	<p>矢野 良直 ヤフー株式会社 山内 勝也 山内 順子 山内 麻衣 山内 正成 山内 悠暮 八巻 恭治 山口 沙予子 山口 利子 山口 真由子 山口 美奈 山口 桃穂 山口 悌 山崎 明子 山崎 麻乃 山崎 英利子 山崎 聡 山崎 淳士 山崎 文之 山崎 元子 山下 公輔 山下 雄一 山田 郁美 山田 和生 山田 勝三 山田 研一 山田 純 山田 容子 大和 健一 ヤマトコーポレーション有限公司 山野 正晴 山部 清明 山部 智寿 山室 達夫 山本 藍里 山本 章子 山本 勝利 山本 幸市 山本 航史 山本 貴也 山本 直史 山本 信江 山本 麻衣 山本 真未 山本 美香 山本 陽太</p>	<p>有限会社 松田興業 有限会社 アイティオー 有限会社 大瀬設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 タマテックラボ 有限会社 ながもと 有限会社 ライフプラス 有限会社 ワイエスディサイキ 有限会社 ワタナベフォトスタジオ 浴 正樹 横幕 航平 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉川 有美子 吉田 優莉 吉田 裕美子 吉野 智子 吉野 茉衣子 吉野 美知子 吉松 友美 依田 大誠 米倉 邦子 米澤 豊 ラーメンエニシ ライオンズクラブ国際協会330-C地区キャビネット事務局 ライオンズクラブ国際協会337-A地区 ライオンズクラブ国際協会337-E地区 LIVE EMPOWER CHILDREN ライフフィットネスジャパン株式会社 長濱 裕史 一般財団法人緑風会 陸 宇萍 レモネードスタンドつきせいベッド@にいがた 若狭 徹 若杉 和枝 渡辺 千香江 和田 敏和 ワタキューセイモア株式会社 渡邊 亜由美 渡邊 静恵 渡邊 貴夫 渡邊 寿江 渡辺 雅子 渡邊 昌子 渡部 眞澄 渡辺 理緒</p>
--	--	--	---

募金者一覧

<p>大浦 英樹 Oval 内田 亜沙美 浜磯こだま商店 医療法人正心会 たなか医院 医療法人たにざき皮膚科クリニック 株式会社 Fast Fitness Japan 株式会社 治田タイヤ 門田 かず子 吉祥寺 ひまり屋</p>	<p>聖路加国際病院小児病棟親の会リンクス 聖路加小児医療センター ソフトバンク株式会社 谷井 晃子 張 光陽 ドナルドマクドナルドハウスにい がた公認・学生ボランティア moi! 中田中央歯科医院 日本生命保険相互会社</p>	<p>沼津経営塾 はるこどもクリニック 文京区 道の駅 風穴の里 モルガン・スタンレー・グループ株式会社 ヤフー株式会社 山内 智宏 有限会社酒ハウス ヤマヤ 有限会社永楽食堂</p>	<p>有限会社 築地にしん太助 吉田 充里 ライフテクノロジーズジャパン株式会社 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 ローソン浜寺石津西4丁目 ローリエ薬局 yuare美容室 片岡 裕美</p>
--	--	--	---

※敬称略

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付 (3,860件) をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

公益財団法人がんの子どもを守る会2025年度事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

2026年6月7日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311 (代表)